

- 厳しさを増す安全保障環境に対応するため、日本における米軍の戦力態勢を、より**多面的な能力を有し**、より**強靱**で、より**機動的**なものに強化する必要。
- ➔ **日米両国は、沖縄を含む地元の負担に対しても最大限配慮しつつ、米軍の態勢の最適化に向けた取組を進める**ことで一致。

沖縄

- 現行の米軍再編計画を再調整
 - ・ 第3海兵師団司令部及び第12海兵連隊を沖縄に残留
 - ・ 同連隊を2025年までに第12海兵沿岸連隊(MLR)に改編

※MLR : Marine Littoral Regiment

- 現行再編計画の基本原則は維持
 - ・ 再編後の在沖海兵隊の規模(約1万人)に変更なし

- ※上記部隊の残留に伴い、別の部隊を沖縄から移転(細部は引き続き検討中)
- ・ 沖縄統合計画に基づく返還予定の土地に影響なし
- ・ 普天間移設事業にも影響なし
- ・ 在沖海兵隊の2024年のグアム移転開始等に変更なし

横浜ノース・ドック

- 海上機動力の強化のため、本年春頃、小型揚陸艇部隊を新編予定

※これまでは随時派遣であった船舶運用のための要員を横浜ノース・ドックに常時配置

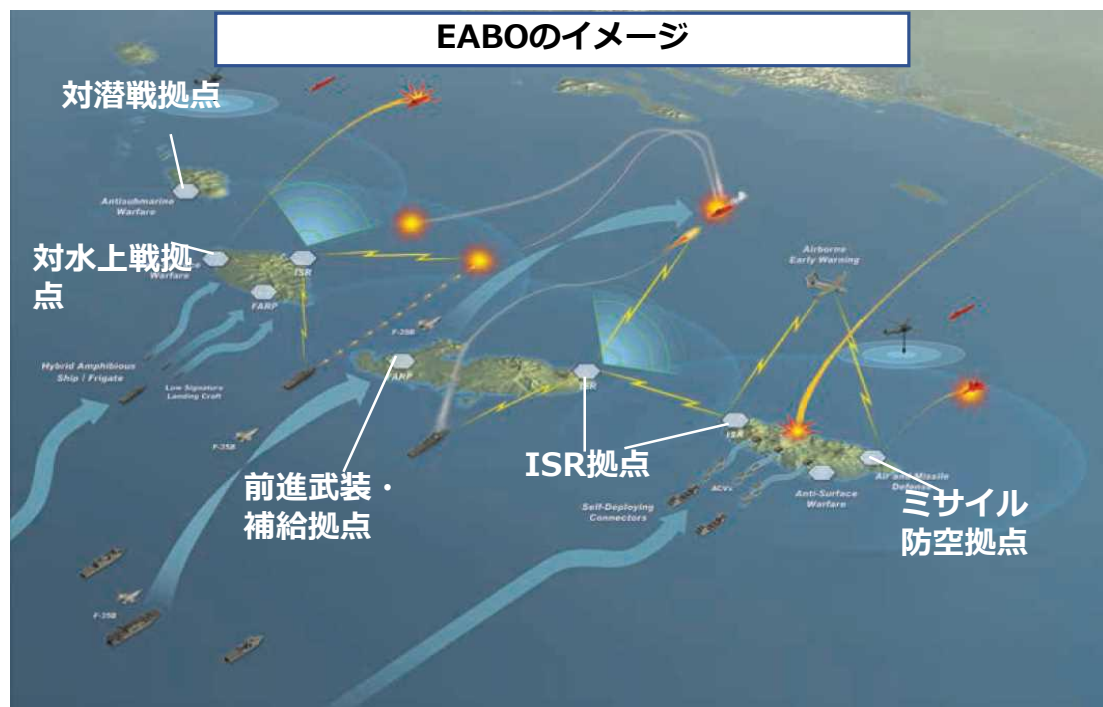
- 新編に伴う船舶の増加はなし

- 本取組は、強化された自衛隊の能力・態勢とあいまって**日米同盟の抑止力・対処力を大きく向上**
- 日米両政府は、**在日米軍の態勢を一層最適化するための緊密な協議を継続**

➤ 海兵沿岸連隊(MLR)は、米海兵隊の新たな運用構想(EABO)を実行する中核となる部隊。

※対艦ミサイル部隊も含む歩兵部隊である沿岸戦闘チーム、対空ミサイルを有する沿岸防空大隊、独立した持続的な活動を可能とする沿岸後方大隊からなる部隊。

⇒より多面的な能力を有し、より強靱で、より機動的な態勢に。



EABO(機動展開前進基地作戦) : 事態発生前から部隊を分散展開。展開した部隊は、防空、機動・分散等の能力により、敵の攻撃から残存。また、情報収集しつつ、対艦ミサイルで敵の行動を制約するとともに、海軍・空軍を中心とする作戦を支援

第12海兵連隊 (砲兵)

司令部
中隊

海兵砲兵
大隊



155mm榴弾砲



HIMARS

改編

第12海兵沿岸連隊 (MLR) の構成 (イメージ)

司令部
中隊

沿岸戦闘チーム
(歩兵大隊ベース)

沿岸防空大隊

沿岸後方大隊



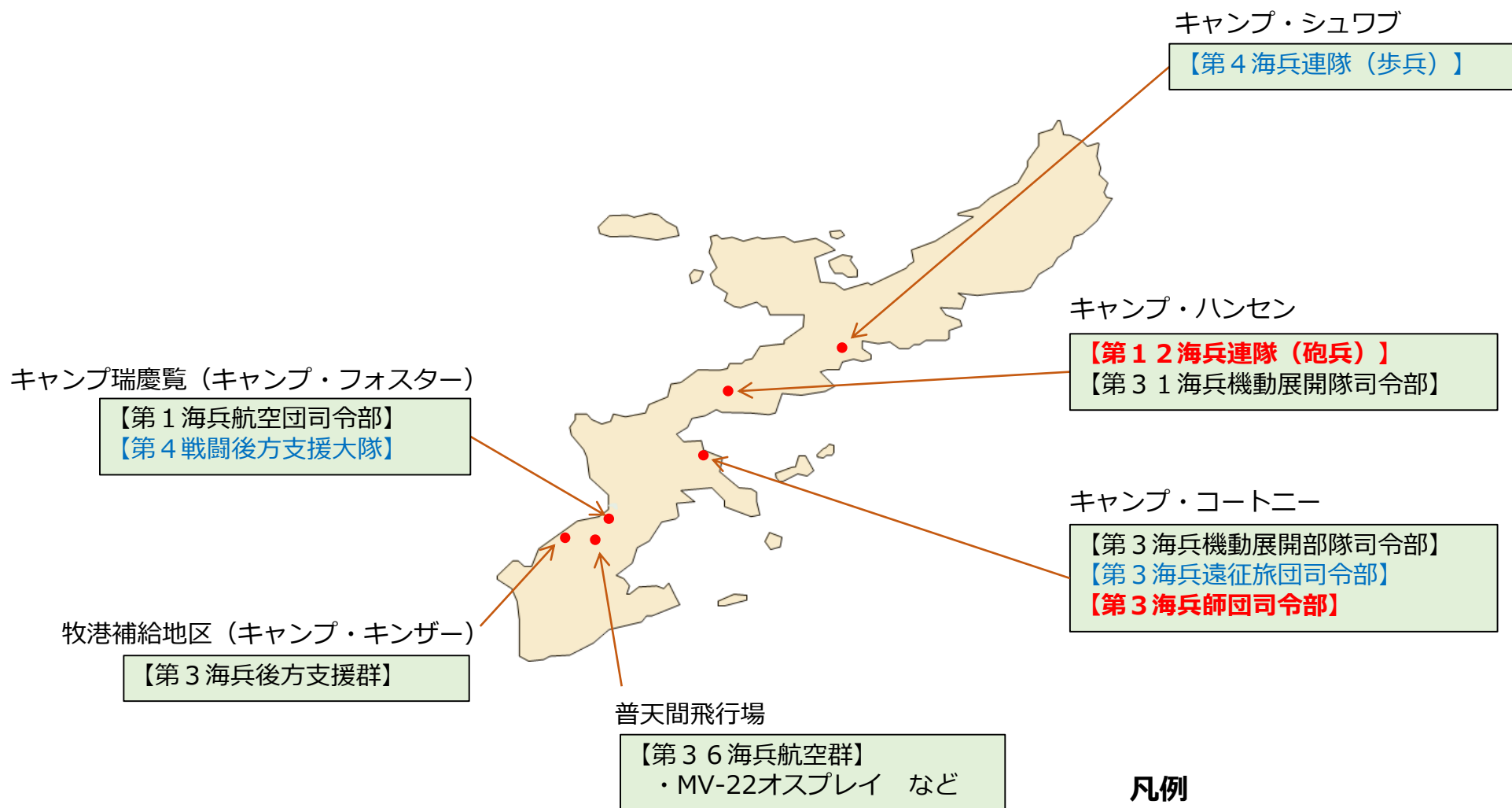
対艦ミサイル



低高度防空システム

※沖縄における対艦ミサイルの実弾訓練はなし (シミュレーション等活用)

沖縄における主要な海兵隊部隊



凡例

赤字：現行再編計画の再調整により残留する部隊

青字：現行再編計画に基づきグアムへ移転予定の部隊

1. 概要

- 令和5年春頃、横浜ノース・ドックに米陸軍が小型揚陸艇部隊を新編予定（13隻及び約280名の編成）

2. 意義

- 戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、南西諸島を含む所要の場所に迅速に部隊・物資を展開可能
- 小型揚陸艇の特徴：
 - ・ ヘリや輸送機と比較して大量の物資の輸送可能
 - ・ 港湾がない場所や港湾が破壊された場所でも接岸可能



➡ 自然災害を含む様々な緊急事態について、日米が連携して対応する能力が向上

➤ 南海トラフ地震等を想定した日米合同災害対処訓練

⇒ 小型揚陸艇により被災地に大量の支援物資を輸送する想定



➤ 東京都帰宅困難者対策訓練

⇒ 小型揚陸艇により東京（江東区）に所在する多数の帰宅困難者を横浜に輸送



➤ 日米共同訓練「オリエント・シールド」

⇒ 日米共同訓練のため南西諸島に物資輸送。小型揚陸艇により、陸上自衛隊の部隊・装備品の輸送支援も実施



（参考）陸上自衛隊も導入中

⇒ 陸上自衛隊も輸送力強化のため同種の輸送船舶を導入中
 ※ 海上輸送力の強化は、自衛隊にとっても重要な課題



陸上自衛隊で導入予定の小型級船舶（イメージ）

3. 新編に伴う影響

- 新編に伴う船舶の増加なし（横浜ノース・ドックに配置済の船舶を使用）
- これまでは随時派遣であった船舶運用のための要員を常時配置
- 追加要員は神奈川県内の既存米軍施設等に居住